

中級教材見本

レッスンで使用している教材見本です。
受講の検討にご参照ください。

勝どき作文教室

※当教室のオリジナル教材です。無断利用・転載はお控えください。利用を希望する場合はご連絡ください。

教材① 立場を明らかにして書く

A「子ども時代には本を読むほうがいい」

B「子ども時代には本を読まなくていい」

いずれかの立場を選び、
資料を参考にして、意見を述べます。

立場を明らかにして書く

【作文】AもしくはBの立場を選び、自分の意見を書きましょう。

A 子ども時代には本を読むほうがいい

B 子ども時代には本を読まなくていい

(条件)

・400字程度で書きましょう。

・初めに、自分が選んだ立場を書きます。AもしくはBの番号は要りません。

・資料しりょうを参考さんこうにして書きます。参考にした箇所かしょがわかるようにしましょう。参考にするのは、「資料1」でも「資料2」でもよいです。また、両方を参考にしてもよいです。

・読書の体験たいけんや読書以外の体験など、自分が体験したことを一つは入れましょう。

・選せんばなかった立場についても言げん及ごうします。選せんばなかった立場に反対する場合、よいところを認みとめた上で自分の意見を述のべましょう。

「資料2」話しあい

みやび

保育園のころ、『しょうぼうじどうしゃ じぶた』の絵本が好きだった。絵本を持って、消防署に散歩に行ったなあ。本物の消防車を目のあたりにしたときは、じぶたの世界に入り込んだようで胸が高鳴った。好きな絵本を何度も読むうちに、自分でも文字を覚えて読めるようになりたくなった。自分の体験から、子ども時代にはできるだけ本を読むといいと思う。

たけと

「本を開くと本の世界へ行」けるといいう、小川さんの言葉にぼくも共感する。ぼくは、猫が主人公の『ルドルフとイツパイアテナ』が好きで、お話の世界に入り込んでいた。現実の世界にも影響があって、保護猫を飼うきっかけにもなった。

さやか

わたしは正直、読書が苦手。私にとっては本よりゲームのほうが、現実の自分に影響を与えてくれた。ゲームをしているときは、ゲームの世界に完全に入り込める。プログラミングを習って、簡単なゲームなら自分で作れるようになったよ。子ども時代に全員が本を読む必要はないんじゃないかな。

としお

ぼくもさやかさんと同じで、必ずしも本を読まなくていいと思う。ぼくは本が嫌いというわけじゃないけど、外で遊ぶほうが好きなんだ。ただ、幼い頃に先生が読み聞かせをしてくれるのは好きだった。目で字を追うだけではなく、耳で聞くことも良い体験になる。絵本を卒業しても、小学校低学年くらいまでは読み聞かせの時間があればいいのと思う。

みやび

私は児童館で読み聞かせをするボランティアをしているよ。みんな目をキラキラ輝かせて聞いてくれるよ。本を読むのが得意な子もそうでない子も、一つでもいいから好きな本に出あって、楽しさに気づいてくれるといいな。

「書き方」

①まず自分の立場を選びます。今回は子ども時代に本を読むほうがいいか、読まなくていいかの二択にたくです。書きやすいほうを選ぶといいでしょう。

A 「読書が好き」「図書館や本屋さんに行くのが楽しみ」「好きな本がある」「小さい頃、お気に入りの絵本があった」↓（ ）つあてはまる

B 「絵本より外で遊ぶのが好きだった」「図書館で時間を持て余す」「読書よりも、他のことをして過ごしたい」「本を読むと眠くなる」↓（ ）つあてはまる

AとBのうち、丸の多かったほうを選ぶのがおすすめです。選んだ立場に丸をつけます。

②資料ーもしくは資料2から、自分の意見に近い箇所を抜き出しておきましょう。

③自分の体験たいけんをふり返ります。Aを選んだ人は、好きな本や小さい頃ころに好きだった絵本、図書館・本屋さんでの体験、本を読んで行動した思い出などがいいでしょう。Bを選んだ人は、読書以外いがいでの好きなことや習ならいごと、熱中ねっちゅうしていることなどがいいでしょう。

④選ばなかった立場について考えをメモします。アイデアが思い浮かばない場合、資料ーもしくは資料2の意見を参考にすると書きやすいです。

教材②自分の体験を書く

物語文に出てくる登場人物の状況を説明し、
自分の体験を具体的にまとめます。

次の文章には、音楽配信の会社を経営する「瀬川」が、中学時代をふり返る場面が描かれています。文章を読み、以下の問いに答えてください。

問 「瀬川」が好きになった教科とそのきっかけについてまとめたいので、あなたが好きな教科について作文にまとめましょう。その教科を好きになったきっかけ、心に残った授業などを具体的に書いてください。(目安…300字〜400字)

緊張する状況を、「目の前が真っ白になる」と表現する人がいるが、私の場合はそんなものではなかった。学生時代、先生が自分の名字を口にするたびに、私は絶望した。

「えーつと……じゃあ、瀬川」

血の気というのは、本当に引くのさ。体温が一瞬にして下がるのを感じる。厚さ十センチメートルくらいの見えない壁にぐるりとかこまれ、自分だけが「フツー」から隔てられた感覚。足の指先にギュツと力を入れても、体のふるえは止まらない。私を見る目の大群が、訝しげに動く。とりあえず何か話さなければと思い、口をかすかに開く。

誰かが筆箱を派手に落としてくれればいいのに。授業終了を告げるチャイムが鳴ればいいのに。そんなことを考える余白はあるのに、いま言うべきことは、遠く遠く壁の向こう側に落としてきてしまったらしい。ボソボソと誰にも聞こえない何かを呟いて、私は席につく。

私の次に当てられた生徒が、けだるそうに答える声が耳に入ってくる。なぜこんな一大事を軽々と乗りこえられるのだろう。理解の範疇をこえている。ふるえて冷たくなった両手を、机の下でギュツとにぎりしめながら、私は感情をできる限り捨てる努力をした。

こんな具合だから、発表がある教科——つまりすべての教科が嫌いだった。

(中略)

合唱パートに分かれて発声の練習をしていたら、とつぜん後ろから声をかけられた。

「高音がきれいで出るね」

音楽の先生だった。「パートの五人で歌ってもらったとき、すぐくうまい子がいると思ったら、瀬川さんだったんだ」

先生は機嫌よくピアノの椅子に腰かけ、「ここから歌ってみてくれない？」と、本当にそれがなんでもないことのように言った。先生の声を聞いて、何人かが集まってくるのが見えた。

もう、一大事どころの騒ぎではない。こうなるとわかっていたら、どんな手段を使っても

音楽室に來なかつたのに。私の周りを、厚さ十センチメートルの壁が取りかこんだ。約束して

いたかのように、体はふるえ始めた。今日という今日は、泣いてしまふんじゃないだろうか。

ところが、ピアノの伴奏が聴こえてきたら、いつもとは違う感覚になった。体のふるえは止

まらなかつたが、声は出るべきタイミングで自然に出た。頭で考えて制御したのではなく、

魂のようなものが音に反応して、おなかから飛び出していった感じ。私が望む音楽が、私か

ら流れ続けた。私は私自身に驚いた。話すことはできないのに、歌うことならできるんだ。

見られる恐怖よりも、音楽を奏でたい気持ちのほうが、ちよつとだけ強かつたらしい。

クラスメートからどんな言葉をかけられたのかは、まったく覚えていない。誰かの反応よりも、私による私自身の発見のほうが、よつぽど大きな衝撃だったということだろう。

その日から音楽が、唯一好きな教科になった。好きな教科なんて一つもなかつた私にとつ

て、心待ちにする時間ができたのは、大げさかもしれないけれど奇跡のようなことだった。

絶望(ぜつぼう)——希望をすっかりなくすこと。「給食がカレーではなく魚の煮付けだと知って絶望した」

血の気が引く(ちのけがひく)——ショックを受ける。「大事な持ち物を忘れて、顔から血の気が引いた」

訝しい(いぶかしい)——どこか変なところがあつてあやしい。「話にいぶかしい点があり先生に呼びだされた」

隔てる(へだてる)——間においてさえぎる。「ふすまを隔てて、ないしょ話をする」

けだるい——なんとなくだるい。「ミーアキャットは、けだるそうにねそべっていた」

範疇(はんちゆう)——物事の基本的な区分。「カレーに入れるチョコは隠し味の範疇だろう」

制御(せいぎよ)——思い通りにおさえてあやつること。「風船をふくらませすぎたら、制御できず飛んでいった」

唯一(ゆいいつ)——それ一つだけしかないこと。「唯一の楽しみだった弁当を鳥にうばわれた」

① 一線「学生時代、先生が自分の名字を口にするたびに、私は絶望した」とありますが、それはなぜですか。

② く線「本当にそれがなんでもないことのように言った」とありますが、このときの瀬川の気持ちを説明してください。

③ 〓線「見られる恐怖よりも、音楽を奏でたい気持ちのほうが、ちよつとだけ強かつたらしい」について説明してください。

④ 「瀬川」の好きな教科は音楽です。瀬川が音楽を好きになつたきっかけについて、文中の言葉を使ってまとめてください。

・瀬川の好きな教科 () 音楽 ()

・きっかけ

⑤ あなたの好きな教科はなんですか。その教科を好きになつたきっかけや理由、先生との出会い、思い出に残っている授業などを思い出し、できるだけ多くメモにとつてください。

※メモを活用し、作文としてまとめます。

・あなたの好きな教科 () ()

・メモ